

サトイモ



(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
地力作り	なるべく早く 植付けまでに20日以上おく	<ul style="list-style-type: none"> ●ラクトバチルス600g →保水性と通気性がよく、連作の効く地力を作る。 ●堆厩肥2トン(なるべく多く) ●硫安60kg(もし通常の複合肥料なら、チッソ成分12kg程度) ※ただし、ポリ・マルチや追肥をしない場合は、硫安80kgとする。 ●硫酸カリ20kg ※堆厩肥が充分入ればカリが補給出来るので、不要。 <p>※ラクト・バチルスにより植付け時の土壌EC:0.2以下となる。</p>
整地時	整地前に全面散布 (または地力作り時に同時投入)	<ul style="list-style-type: none"> ●畑の大将<青> 40~60kg ※土壌pH:6.5以上と高い場合は田畑の大将<赤>を施す。 ※サトイモは やや酸性(pH:5.8前後)を好みますが、土壌pHを測定して、どちらかを選択・調節する事。 ●マンゾク粒状50kg →萌芽・生長・肥大を強く促進し、連作障害を軽減。
植付け後	[3~4月] 植付け後7日頃	<ul style="list-style-type: none"> ●根っ酵素500倍液を灌水 →発根・萌芽・初期伸葉を促進し、土壌障害も軽減。
追肥(土寄せ時)	[5月~6月] 月1回(計2回)	<ul style="list-style-type: none"> ●硫安10~20kg(×2回)
	[7月] 3回目の追肥	<p>3回目の追肥時には、チッソとカルシウムを同時施用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●硫安20kg ●田畑の大将<赤> 20kg →子イモ~曾孫イモの着生・充実を促進。
葉面散布	[6月~8月]	<ul style="list-style-type: none"> ●花咲<Ca液500倍>を葉面散布 →デンプンの転流、新イモの充実促進。 ※半月ごとに定期散布。 ※特に収穫30日前(7~8月)には、Caの葉面散布がイモの充実に効果的。

※品種:石川早生。他に大吉、土垂れなど

※上記は春植え・秋穫りの日程です。秋植え・春穫りの場合は、植付け:10月、収穫:3~4月

畑作事例編

根茎類・イモ